令和7年度　第4回田原市地域公共交通会議会議録

会議名	[第75回]令和7年度 第4回田原市地域公共交通会議
開催日時	令和8年1月9日(金)10:00～11:20
開催場所	田原市役所　講堂(南庁舎6階)
出席者氏名 **（敬称略）**	**（委員）** ○田原市副市長 鈴木　亨**[会長]** ○田原市都市建設部長　河邉　俊和**[副会長][議長]** ○豊鉄バス株式会社代表取締役社長 【代理】縄稚　泰三 ○豊鉄ミデイ株式会社取締役支配人　西山　恭昭 ○渥美交通株式会社代表取締役　鈴木　雅 ○愛知県タクシー協会豊橋支部長(豊鉄タクシー株式会社取締役社長)　鈴木　英司 ○豊橋鉄道株式会社代表取締役社長 【代理】大場　孝浩 ○田原市老人クラブ連合会長　長神　隆士 ○田原市地域コミュニティ連合会長　花井　隆 ○田原市商工会副会長　天野　英一郎 ○一般社団法人田原青年会議所理事長 【代理】藤城　敏光 ○田原市民生児童委員協議会主任児童委員 小川　恵子 ○国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官　原田　光一郎 ○愛知県都市・交通局交通対策課担当課長【代理】森本　恭平 ○愛知県田原警察署交通課長　秋葉　有志 ○愛知県東三河建設事務所維持管理課長　奥谷　敦史 ○豊橋技術科学大学建築・都市システム学系准教授　松尾　幸二郎**[副会長]** ○一般社団法人渥美半島観光ビューロー事務次長　彦坂　真**[監事]** **（事務局）** □都市建設部街づくり推進課長　鳥居　伸光 □都市建設部街づくり推進課 公共交通係長　山本　貴士 □都市建設部街づくり推進課 公共交通係主事　樽谷　佳奈子 □福祉部高齢福祉課長　河合　まり子
欠席者氏名 **（敬称略）**	○公益社団法人愛知県バス協会専務理事　小林　裕之 ○豊橋鉄道労働組合中央執行委員長　松下　裕紀
報告事項	(1)伊良湖本線・支線(豊鉄バス(株))の乗降者実績について (2)伊良湖支線の延伸について (3)伊良湖本線・支線のサイクルバス導入実証実験について (4)公共交通に関する利用促進の取組について (5)公共ライドシェア検討ワークショップについて
協議事項	(1)ぐるりんミニバス「中山線」のデマンド運行実証実験について (2)令和7年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価(案)について (3)地域公共交通計画(令和9年度)別紙の変更について
会議の要旨	以下のとおり。
	［１　会長挨拶］

鈴木会長 （副市長）	皆様、おはようございます。本年もどうぞよろしくお願いを申し上げます。 年初の大変お忙しいところご参加いただきまして、ありがとうございます。また本市の公共交通に関しましてご尽力いただき、重ねて御礼申し上げます。 さて、昨年は6月において、交通系ICカードの導入、高校生通学定期補助の3割から5割への拡充、そしてサイクルバスの導入実証実験とぐるりんミニバス中山線のデマンド運行実証実験など様々な取り組みが行われた年となりました。また、渥美地域における公共ライドシェアの導入検討も進められているところでございます。本年も引き続き皆様のご協力をいただき、利便性への向上に図って参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。 本日の協議事項は3件となっております。慎重審議の方よろしくお願いいたします。そして報告事項が5件ございます。どうか皆様の忌憚のないご意見をいただき、実りある会議となりますことを期待しております。
	［２　報告事項］
	（１）伊良湖本線・支線（豊鉄バス（株））の乗降者実績について ※縄稚委員（豊鉄バス（株））より説明【資料1】
松尾副会長 （豊橋技科大）	質問ではありませんが、実はこのICカードの導入、3月15日に行われたので大学としまして、この前後で利用がどうなったかというのを豊橋駅のバスターミナルでアンケートを配布して調べております。導入前では支払い方法に対する不満が2割、どちらでもないを入れると4割ぐらいでしたが、導入後は不満が1％ぐらいまで減っていまして、全体でとても満足が7割、それからやや満足が2割、9割以上がとても満足かやや満足に変わったということで満足度として非常によかったということですね。それから利用頻度については、通勤通学で利用されていた方はもともと決まった移動ですので、そこまで大きな変化はありませんが、一番やはり大きいのは買い物で利用するような方が週2、3回増えたというのは非常に多くなっております。あるいは月1回増えたとかなので、もともとその定期券とかではない形で使っていた方々の利用がかなり喚起されたかなと思います。また今後ICカードのデータ分析も、今データを豊鉄さんにいただきながらやっておりますが、例えば路線別に伊良湖本線・支線というのを分析もできますので、また随時結果が出次第ここでご報告をさせていただければと思います。
	（２）伊良湖支線の延伸について ※事務局より説明【資料2】 ※意見等なし
	（３）伊良湖本線・支線のサイクルバス導入実証実験について ※事務局より説明【資料3】
松尾副会長 （豊橋技科大）	9月1件、10月1件その後利用がないということですが、寒くなるというのももしかしたらあるのかなとは思いますが、この 1件ずつ利用されたときには、特に問題はなさそうだったかということと現状として、まだこういうのができるということが知れ渡っていないので利用がこのぐらいになっているのか、あるいは、予約不要で先着順なので、自転車で行ったはいいけど、もう埋まってたら乗れないからこの自転車どうしようということもありえるのかなと思って、そのあたりは調査をしっかりはまだされていないと思いますが、感覚とかあれば教えていただければと思います。取り組み自体は非常にいい取り組みだと思っています。
事務局	まず豊鉄バスさんの方からは、運行の際に何か支障があったり、トラブルがあったということはないと認識しておりますがそれでよろしかったでしょうか。

縄稚委員（豊鉄バス（株））	はい。現場の方からも確認しておりますが、大きなトラブルもなく、もし（載せ方等が）分からない場合は、運転手がここまでお手伝いするような形で対応するということになっておりますので、今後も増えていただければいいかなと考えております。
事務局	ありがとうございます。もう1点、利用実績の少なさに繋がる話ですが、1点は先ほど先生がおっしゃられた予約といったところの問題はあるのかもしれないですが、もう1点は検索をかけても、サイクリングルートを検討する際に検証しづらいですとかそういった予定の組みづらさというものがありますので、より一層周知の方法を強めて、候補の1つに入れていただけるような取り組みを進めていきたいと考えております。
	（４）公共交通に関する利用促進の取組について
事務局	※事務局より説明【資料4】
松尾副会長（豊橋技科大）	渥美線博士の部分で、今渥美線では駅に絵本がある「絵本の駅」という取り組みをやっていたと思います。こちらがお子さん相手だと思うのでその辺りの紹介をイベントの中でされていないようでしたら、次回以降ぜひ紹介していただくといいかなと思います。
事務局	ありがとうございます。今回のイベントでは紹介をしておりませんが、豊橋市さんの方からも情報共有していただいておりますので、次回以降ぜひ紹介させていただきたいと思います。
花井委員（田原市地域コミュニティ連合会長）	夏休み期間に行われているイベントについて、今、小中学校は部活動がなくなってからプールもなく、市民館でもワークショップ等のイベントをやると結構集まりがいいので、ぜひこういう活動をさらに宣伝していただいて、子供たちが希望して色々視野を広げてもらえると思うので、ぜひこの取り組みを進めていただきたいなと思います。
	（５）公共ライドシェア検討ワークショップについて
事務局	※事務局より説明【資料5】
松尾副会長（豊橋技科大）	同じ地域で2つの組織が時間帯を変えて実施するということだと思ったんですが、利用者にとっては、特にそこの違いはなく入れるということを想定されているのか、もしくは少し仕組みが違うのかというところもあるが、もし1つで案内するとより周知も効率的にできたりすると思いますし、利用者としても、夜間の方で話を聞いて日中にもそういうのがあるということも知れて、利用にも繋がると思っております。ただ、一方であまり一緒にやらないほうがいい場合もあるかもしれません。その辺りの想定を教えていただければと思います。
事務局	現状、飲食店組合さんの方は主に飲食店を利用されてアルコールを飲まれた方を利用客として想定をされておりまして、農泊推進協議会さんの方は主にフェリーで来訪された観光客の方を、たはら巡り～なという事業で交通機関のないところで、いろんな事業をやられているので、そこを巡るような形で想定をしております。 運行方式だとかも今現在詰めているところですが、それぞれ業者が違うようなやり方になっておりますので、一体的な実施というところは難しいのかもしれませんが、エリアも重複しているので、先生がおっしゃられた通り、周知等々については、一緒にできるような形で今後詰めて調整していけたらと考えております。簡単に言うと、運行管理者を1つにすることは今想定をしてないわけで、実証実験を進めていこうと考えておりますので、また分科会にて細かいご相談をさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

森本委員（愛知県交通対策課）	この事業は、愛知県の事業に田原市さんの方で応募いただいて今一緒に進めさせていただいております。関係の皆様、ご協力いろいろありがとうございます。この書類ですと第1回～第4回の4回だけというふうに見えますが、前あるいは間に調整をしていただいております。今お話いただいた2社を1つにというところは、田原市さんとか県の方でも色々考えてはおりますが、なかなか難しいところがあったり、初めてのことですのでスモールスタートというところも重点的に考えながら、まずはこういう形でやっていきながら、先生がおっしゃられた通り効率化できるところはしていきたいという考えで進めさせていただいております。今後も協議等発生すると思いますので引き続きよろしくお願いいたします。
原田委員（愛知運輸支局）	交通空白解消ということで自家用有償を実施しようということだと思いますが、利用者が結果的に飲食店を利用した方がメインだと思いますが、一応制度上交通空白における地元住民の足というような形での制度として成り立っているものですので、最初は地元の方も含めるという形が良いかなと思います。結果的に利用するのはそうじゃないかと思いますが、またその辺りは分科会で詰めさせていただきたいと思います。
	［３　協議事項］
	（１）ぐるりんミニバス「中山線」のデマンド運行実証実験について
事務局	※事務局より説明【資料6】
松尾副会長（豊橋技科大）	今回、新しい委員の方もいらっしゃるので、もし可能であれば、次回から空間的な図でどこにどの路線が走っていて、定時定路線がここで、新たに交通空白地として新設したところがどこだとかを一緒に掲載していただけると、議論がしやすいかなと思いました。 資料6-2の一番下、デマンド運行実証実験開始後は7%減少となっており、多分皆さん減ったという印象が強いと思いますが、個人的には減少が少なかったという印象です。というのは大体どこの地域でも、定時定路線からデマンドにすると予約抵抗というのは結構大きく、もっと減ることの方が多いです。ですが、おそらく今回はその曜日で定時定路線をやったということがあったので、一定程度そちらに移行するということが起きて、少し減少が下げ止まったのかなというふうに私としては解釈をしております。その認識がちょっと正しいかどうかと平日が伸びているという話もありましたので、そういうことなのかなというところです。とはいえ、減るのになぜやるかというのは、そもそもの目的として、もともとの定時定路線でカバーできないところも公共交通として一定程度カバーしないといけないということがありますので、多少、もともと減少するのは分かっていたけれどカバーするためトレードオフにはなりますが、それを想定はしていたけれども、それでも逆だということかと思いますので、そういう意味では曜日を分けてやったということは、一定程度現在効果がはっきりあったと言えないとは思いますがやり方の1つとしてあり得るなと。要は今実験的にやりましたが、今後も本格運行としてもあり得るなというような個人的な考えはあります。なのでやっぱりさっき言われたようにほとんどこういう運行方法を変えると大体3年ぐらいかかります。結構ちゃんと利用がなってくるまでそれぐらい周知が結構かかるということなんですが、そこまで長くはできないんですが、今回期間を延ばしてもう少し検証してみるということは非常に重要かなというふうに思っております。 先ほどの解釈がある程度正しそうかどうかというコメントをいただければと思います。
事務局	今、松尾先生がおっしゃった通り、簡単に言いますとこの数か月の実証実験では、すぐにオールデマンドにする、全部定時定路線に戻すといった答えも出ず、このまま曜日別のままでもいいのではないかということを先生おっしゃいましたけども、もう少し走らせてみまして、利用客のアンケート等をとって、どういった方針がいいかということを精査をしていきたいと考えております。
河邉議長（都市建設部長）	本件について、原案どおりご意見ございませんか。

各委員	異議なし。
河邉議長（都市建設部長）	異議なしとご発言をいただきましたので、本件につきまして承認されました。
	（２）令和７年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価（案）について
事務局	※事務局より説明【資料7、7-2】
松尾副会長（豊橋技科大）	確認ですが、地域間幹線系統の方でご報告いただいたのが、渥美病院田原駅前保美という系統ですが、田原を通ってる路線は伊良湖支線と伊良湖本線があって、そのうち補助主体というところが国と県とが入ってるとこの地域間幹線系統というものになるかと思いますが、今報告があったのが田原市内で完結する系統なので、田原市として評価をしてるということで、田原を超えるようなもの…。ごめんなさい。僕もわかっていないのですが、このいくつか系統がある中で、今回これだけが対象というのは、なぜでしたか。
森本委員（愛知県交通対策課）	非常に分かりづらくて申し訳ないですが、協議資料1のところで、この路線のうち4本が幹線系統として位置付けられております。このうち上の3本については県の計画の方で位置付けております。ちょうど昨日、県の会議で同じようなことをして国に申請を出すという手続きを踏んでおります。なぜ分かれているのかと申しますと、県のルールというところになってしまうのですが、この4本目の今、市の方でやっていただいてるものについて補助主体のところに県と入ってるのですが、県が入ったのは今年からでして、今評価しているものは、前年度のものなので当時県が入っていなかったので、そうしたものについては地元の市町村の方にお願いするというルールになっていたので、今回の評価まで、田原市さんの方でお願いするということになってます。次回からは県の補助が入ったので上の3本と合わせて県の方で評価、手続きをするということになる見込みです。
松尾副会長（豊橋技科大）	理解できましたありがとうございます。 その上でコメントになりますが、まず次回からは、地域間幹線系統の評価は基本的にはこの公共交通会議ではなくなるということだと思いますが、やはりこの資料1みたいな見方が非常に重要なので、ぜひ継続を主としてやっていただきたいです。今たまたま対象になっていた系統が輸送力減少しおり、その理由が定期券ということなので、今22.7という数字ですが、今までは伊良湖支線が心配でしたがどちらかというと伸びていく状況になり、むしろ今ご説明いただいた系統、昨年27.6で22.7というふうに減っています。しかもその理由は定期ということで、おそらくその状況が続くと安定的に減ってしまう可能性があるなということで、ここはやはり今後見ていかないといけないかなと感じました。とはいえ、本線については基本的には同じところを通ってるので、そこだけ着目してどうこうということはなかなか難しいので、個別に対策ができるというよりは本線全体でということになるかと思いますが、そこを見ていく必要があるかなと思いました。 それと関連して資料1の渥美病院田原駅保美系統の令和5年度と令和6年度の数字が全く一緒なのとそれから休暇村とか、豊橋保美系統の令和6年度と7年度が一緒というのはなかなか珍しいことだと思うのですが、あり得るのでしょうか。
森本委員（愛知県交通対策課）	一応県の方に出てる資料も同じ数字なので、この資料1が間違っているということではないと思います。
松尾副会長（豊橋技科大）	ベースが多くなってくるのですか。

森本委員（愛知県交通対策課）	はい。
秋葉委員（田原警察署）	違和感があるということでしょう。本当にこの数字が正しいんですかということを聞いたんですよね。
松尾副会長（豊橋技科大）	そうです。要は令和5年度と令和6年度は状況が変わっていないのか、ずっと減ってきているのかなと。
縄稚委員（豊鉄バス（株））	ご説明させていただきますと、これあり得るというのがですね、2日間の乗降調査の結果でたまたま同じぐらいの利用者があって、密度というものを出すのですが、そこからかける運行本数という形で、輸送量を出すので、あり得ると思います。たまたま同じくらいその年度はすごい幅の中で同じぐらい乗っているということなので、全く同じ利用者ではないですが、最終的に答えが一緒になったというか、概ねそれぐらい平均的に乗っているということであり得るかなと思います。
松尾副会長（豊橋技科大）	ありがとうございます。これが正しいとすると、令和5年度と令和6年度はそんなに変わっていなくて、令和7年度で少しぐっと落ちてしまったということなので、もし、現時点で今後減っているかどうかで少し微妙で、たまたまの可能性もあると、定期利用がたまたま少ない年だったということもあるかもしれないということで、もう少し様子を見てたほうがいいということですね。
縄稚委員（豊鉄バス（株））	この定期利用に関しても、例えば先ほど先生からお話あったように、並行して走っているので、たまたまこの便に乗らなかったということも2日間の調査しかやっていないので、そういうことはあるかなと思いますので、少し様子を見ながらと。ただ、学生さんの数が年々減っているのは事実ですので、その部分は特にしわ寄せが来るかというのは注視していかなければならないかなと考えています。
原田委員（愛知運輸支局）	資料7の中部様式について、7ページの上から3つ目のサンテパルク線、こちらフィーダー補助を受けていただくのですが、これ見ると、過去6年間ずっと残念ながら目標達成できていないという状況で、この方策を見ると小中学校の夏季休暇の影響で、利用者減少等の記載があるのですが、夏休み期間で50円バスとか施策としてやられているかと思うのですが、何かコミュニティバスのPRとか何か頑張ってやってらっしゃる取り組みがあれば教えていただきたいです。
事務局	50円バスは当然市内のお子さんに向けた周知をしていますが、直接的に50円バスのメリットが豊鉄バスさんのような路線バスに50円で乗れるというところで、ぐるりんバス自体は小学生無料なので、PRをして乗車数を増やすというところは繋がる可能性はありますが、メリットとしてなかなかぐるりんバスの割引には繋がらないものですから、周知は当然行っていきますが、それを理由に直接的な効果は見受けられないというふうに考えております。
原田委員（愛知運輸支局）	中学生も無料ですか。

事務局	中学生は200円になります。なので中学生等にも周知をしていきたいなと思います。 補足になりますけれども、本日資料4でお示ししたように、サンテパルク線利用者獲得というところで連携した利用促進といたしまして、イベントあるごとにバッチを配ったりとか、サンテパルクで収穫祭をやった際にパネル展示だとかの実施で利用促進を図っております。ただ、来年度からサンテパルクが改修に入りますので、整備2年、3年後にどうしても落ちてしまうのかなというところで、ご承知おきいただければと思います。
河邉議長（都市建設部長）	本件について原案通り承認することにご異議がない方は挙手をお願いいたします。 **（全会一致で承認）**
	（３）地域公共交通計画（令和８年度）別紙の変更について
事務局	※事務局より説明【資料7】
天野委員（田原市商工会）	これはバスの納期以外の修正は可能ですか。
事務局	今回はその予定はありませんが、具体的にどういうことでしょうか。
天野委員（田原市商工会）	令和8年度の別紙4の中段以降にある市の財政負担金1億8,500万円とあるんですが、これは先ほど報告があったように、もう明らかに足りないわけなので、目標として欲しい修正がきくのであれば、労務費だとか燃料費の高騰が原因で、これが本当に達成できるのかという疑問を感じるのですが、その辺りいかがでしょうか。
事務局	今おっしゃった通りこちらの目標はなかなか難しくなってきてます。田原市から出す豊鉄バスの補助金の方も増えていますので、今後これを切ることはないなということで考えております。ただ、こちらが公共交通計画の方に記載されてるものですから、この6月にはそちらの目標を変えた上でこちらにも変更していくということで、公共交通の計画の冊子の目標を変えた上で、合わせて変更して参ります。今回はこのままで出させてそちらの計画を修正した後にまたこれを修正させていただきます。
河邉議長（都市建設部長）	本件について原案通り承認することにご意見のある方は挙手をお願いいたします。 **（全会一致で承認）**
	［４　その他］
	（１）意見・情報交換 ※なし
	（２）次回開催予定
事務局	次回は3月頃開催予定です。 それでは皆さん、長時間にわたり、慎重審議いただき誠にありがとうございました。 これをもちまして会議を閉会させていただきます。